

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会 地域ビジョン【概要版】

令和7年3月



鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の地域ビジョン

地域ビジョンとは、ひとまもり・まちまもり協議会がこれからの地域をより良いものにしていくためにはどのように活動すればよいかを示す指針です。将来を見据えたまちづくり活動を行うための体制づくりのきっかけとなるものであり、住民と自治体等が対等なパートナーとして、ともに理想の地域を築くための道しるべです。この度、鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会としての今後のまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しました。

■ 地域ビジョン

住民の毎日をまもる協議会として 「広域のつながりでどこにいても安心できるまち」へ

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の 目指す地域づくり

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会は、身近な課題に目を向け、安心・安全な地域づくりに取り組む組織として、住民の生活に寄り添うべくこれまで活動に取り組んできました。

一方で、協議会の認知度が住民に十分広がっていないことが課題となっており、その一因として、自治会と協議会の明確な役割分担ができていないことが挙げられます。

今後は、協議会として一歩進み、自治会の役割と、広域の組織であるひとまもり・まちまもり協議会の役割を明確にすることで、住民の身近な日常をまもる活動だけでなく、地域の未来を見据えた活動を実施していきます。例えば、災害対策のような自治会単位では対応が難しい広範囲な課題に、協議会ならではの視点とネットワークで積極的に取り組みます。それぞれの組織が役割を発揮し、住民の毎日をまもり、安心を与える協議会となっていきます。

■ひとまもり・まちまもり協議会とは

ひとまもり・まちまもり協議会は、多様な人や団体が連携して、住民が力を合わせて主体的に地域づくりを行う新たな地域コミュニティです。地域住民が中心となって、地域の特性をいかにしながら連帯感を高め、将来を見据えた地域づくりを行っています。自治会を含めた多様な主体や幅広い人材が連携・協力することにより、様々な課題に対して、ネットワークをいかした自主的・効果的な取組が期待できます。

地域ビジョン策定について

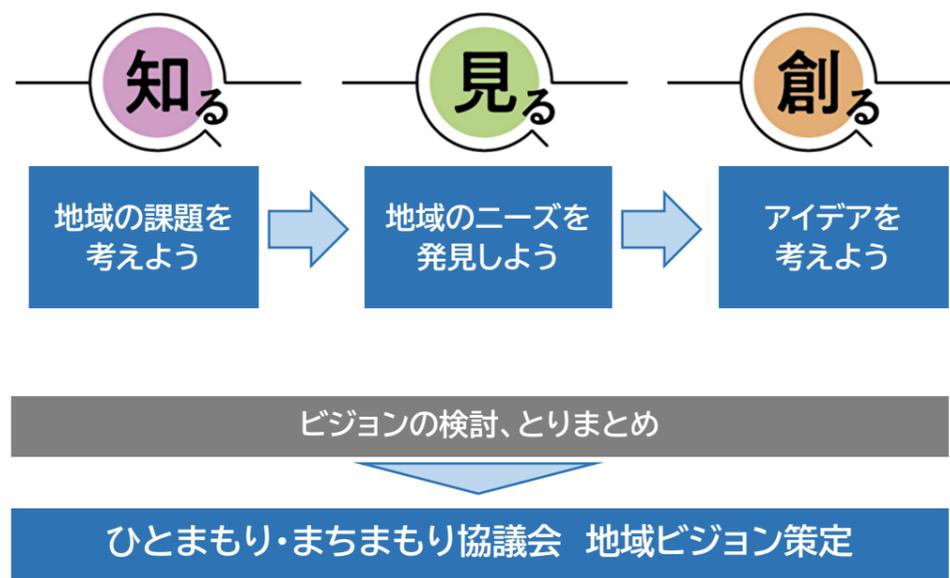
地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するためにワークショップを実施しました。鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の現状と課題についての整理を行い、活動するうえでの活動目標と活動方針を整理しました。

■ 鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の今後の活動目標

活動目標①	世代を超えて一丸となって協力できる協議会
求められていること	<ul style="list-style-type: none">●協力組織との連携を強化する●役員などの分担を明確にし、負担が偏らないようにする●若い世代が活動しやすい組織にする
活動方針	協議会の活動により世代間の連携を強化します。自治会との役割分担を明確化し、協議会と協力組織の連携を強化します。
活動目標②	情報発信改革・コミュニケーション改革
求められていること	<ul style="list-style-type: none">●活動内容を見えやすくするため、協議会の広報誌を作成し配布する●参加者や協力団体が増えるよう働きかける●LINE などデジタル技術を活用する
活動方針	実施している広報活動の有効性を検証します。地域住民との円滑なコミュニケーションの実現のためにデジタルを活用した情報発信を進めていきます。
活動目標③	子どもと地域をつなぐ協議会
求められていること	<ul style="list-style-type: none">●PTA や学校と連携し子どもが中心となる取組を増やす●親世代への活動内容の周知を強化する●子どもたちが安心して外で遊べる地域にする●子育て世帯が困ったときに頼れる組織となる
活動方針	子どもが地域活動に参加するための仕組みを柔軟に変化させ、子どもや保護者が必要とする活動に取り組みます。
活動目標④	地域をまもり、支える組織づくり
求められていること	<ul style="list-style-type: none">●災害対策や防犯に向けた取組を強化し安全なまちにする●一人暮らしの高齢者世帯への支援を行う●住みやすくきれいなまちづくりに取り組む●何かあったときにすぐに動ける組織として、地域のセーフティネットになる
活動方針	地域の困りごとの見える化を進めます。また、災害時に備え、日常から地域の防災意識を高める活動をします。

課題解決ワークショップの開催について

地域ビジョン策定にあたり、住民の声を反映するために、「持続可能なまちづくり」をテーマとし、デザイン思考を用いた「課題解決ワークショップ」を全3回にわたり実施しました。



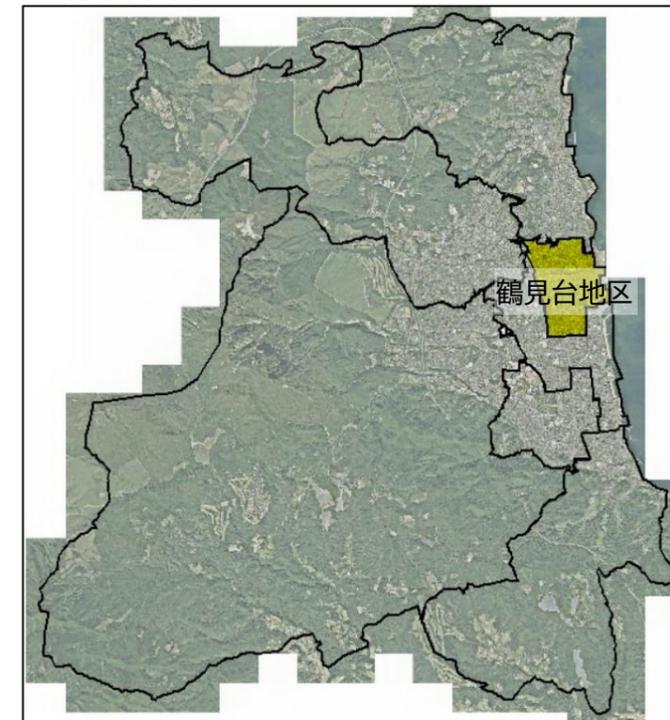
デザイン思考
問題を解決するための思考法の一つです。課題を洗い出した後に、重要な問題を特定することで真に解決が求められている本質的な問題はなにかを考えます。この問題に対し、どう解決していくかアイデアを出し合い、実行プランへと具体化します。意見を出し合い、重要なものに絞り込んでいく過程を繰り返すことで、普段可視化されていなかった潜在的な課題や対応が必要な事項を探り出すことができます。

鶴見台ひとまもり・まちまもり協議会の概要

■ 地区の基本情報

設立	令和3年4月1日
構成団体	自治会(石垣・春木川14自治会)、町内公民館、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、青少年育成協議会、体育協会、小学校、中学校、PTA、地区公民館、石垣地区防災士会、消防団、地域包括支援センター、春木川を守る会
該当地区	石垣西四～十丁目、石垣東四～十丁目、南須賀町、汐見町、船小路町、中須賀元町、中須賀本町、中須賀東町、春木町、上人南、桜ヶ丘
面積	約 2.35 km ²
人口	鶴見台地区全体:15,626人 15歳未満:1,730人 15～64歳:9,681人 65歳以上:4,215人 (令和6年7月末現在)
高齢化率	26.9%

〔別府市内図〕



「課題解決ワークショップ」で出た主な意見

第1回

知る

ワークショップの中で鶴見台地区に潜在する課題を洗い出し、重要度の高い課題は何なのかを考えました。

■ワークショップで挙げた課題

<p>キーワード：情報発信、認知度</p> <p>実際の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SNSの整備などデジタルの活用が必要 ●協議会の組織や活動の情報までたどり着かない ●イベントに参加してもらえれば満足度は高いので参加率を上げるためのPRを行う ●活動の魅力が少ない、伝わっていない ●住民の認知度が低い 	<p>キーワード：少子化</p> <p>実際の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代の意見を聴く機会がない ●子ども会がなくなるなど、子ども向けのイベントや子どもが多数集まる機会が減った
<p>キーワード：自治会・協議会の組織、体制</p> <p>実際の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自治会長の負担が大きい(役員兼務など)、すべてがハブとしての自治会長のところに集中している ●役員の高齢化、後継者不足 ●民生委員等、他の機関とのつながりが必要 	<p>キーワード：協議会の活動</p> <p>実際の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティを超えた活動が必要 ●協議会と自治会の活動が重複している ●子どもから高齢者まで一緒に参加できるものがない ●活動の目的や方向性が分からない
<p>キーワード：防災</p> <p>実際の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ●協議会で災害対策を実施、災害ボランティアをどう組織するか ●災害時の救援活動の課題、特に高齢者世帯のサポート ●防災備品を備えていても地域の人知らない 	

第2回

見る

鶴見台地区が目指すべき姿を考えました。

第3回

創る

鶴見台地区が実際に取り組みたいアイデアを出し合いました。

